|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **議事録** | | 作成日：2013年10月25日 | |
| 作成者：石橋太樹 | |
| **議題**：第2回プレゼン内容 | **実施日**： 2013年10月25日 | | **場所**： 本館504号室 |
| **発表者**：リーダー　吉田優徳（オペレーター）　サブリーダー　鈴木健太（病欠）  メンバー　石橋太樹（プレゼンター）　奈須健太　山本樹 | | | |
| **参加者**：3G1、石井、田邊 | | | |
| **発表内容**  　社内SNSを導入に至った背景（現状と問題点から改善点とメリット）の説明、社内SNSのメインシステムの説明（ユーザ検索、アドバイス、チャット、イベントスケジュール）をして、最後にアピールポイントと進捗状況を伝えて発表を終えました。 | | | |
| **質疑応答の内容**  Q（飯田）結局技術者だけに負担をかける形になりませんか、またその対策はしていますか。  A（吉田）アドバイス機能に強制力はなく、たまたま知っている人が見て答えてくれる、また答えは知らないが有益な情報を持つ人が答えてくれることもありうるので、技術者だけに負担をかける形にはなっておりません。 | | | |
| **講評の内容**  　身だしなみ、出欠には気を付ける。また、資料配布はお客様・上司から先に配る気配りが欲しい。  アナログの良さまで考慮していることを示すため、システム化すると生じる「デメリット」も考える。  　プレゼンに際しては、声が大きく堂々としている印象を受けた。放課後残って練習したり、朝早めに来て電車遅延の影響も受けないなど、プレゼンに対する前向きな姿勢が伺えた。前日放課後のリハでは「えーと」など耳障りな所が改善出来ていて、聞きやすかった。  しかし、資料に目を落とすことが多かった。また、質問は極力プレゼンターが答えられるように。  アドバイス機能の「Q/I/A」は初めて使う人でも、マニュアルを見なくても使えるよう変更すると良い。 | | | |
| **個人別に良かった点・悪かった点**  吉田優徳：　予め、質疑応答の打ち合わせをしたのにも関わらず、似たような質問が来た際に、慌てて  しまって、他のメンバーに頼る形になってしまいました。次回は、もっと質疑に対する対応をメンバーと確認し合い、ハキハキと自信持って答えられる様にして行きたいと思います。  鈴木健太：　欠席により打ち合わせのみならず、本番の参加もできずグループ作業に支障をきたし  てしまっている。体調管理をしっかりとし早期に復帰し遅れを取り戻したいと思います。  石橋太樹：　自宅などでも練習（プレゼン）をしていたが、言葉が詰まると、何を伝えようとしたのかわからなくなってしまって、まだまだ練習不足を実感した。又、質問を受けると頭が真っ白になるのもあったので、どうにかしたいと思いました。  奈須健太：　第1回目のプレゼンの時は、照明係をし、２回目は資料の配布をしました。  　　　　　3回目のプレゼンの時も引き続き頑張って活動していきたいと思います。  山本　樹：　また前日に体調を崩す事態を起こしましたが、なんとか出席できました。プレゼン内容に関することや、質疑応答の内容に関するメモをとり、メンバー間での情報共有を行いました。もう少しプレゼンターへの助力や、予想しうる質疑に対して事前に応答を考えるなど、できることはあったと思いますので次回取り組みたいと思います。 | | | |
| **次回に向けた改善事項**  質疑応答に対する打ち合わせ、及び、プレゼン内容の向上。 | | | |